ポスター | 1-12 自律神経・神経体液因子・心肺機能

ポスター

自律神経・神経体液因子・心肺機能

座長:馬場 礼三(あいち小児保健医療総合センター)

Fri. Jul 17, 2015 1:50 PM - 2:32 PM ポスター会場 (1F オリオン A+B)

II-P-094~II-P-100

所属正式名称:馬場礼三(あいち小児保健医療総合センター 循環器科)

「II-P-098]Fontan術後患者の BNPと高感度トロポニン Tの臨床的意義

[○]朝貝 省史, 稲井 慶, 原田 元, 島田 衣里子, 清水 美妃子, 石井 徹子, 篠原 徳子, 杉山 央, 富松 宏文, 中西 敏雄 (東京女子医科大学 循環器小児科)

Keywords:BNP, Troponin T, Fontan

【背景】 BNPや高感度トロポニン T (hsTnT) は心不全を評価する biomakerとして有用とされているが Fontan術後患者においては BNP、特に hsTnTの役割は明らかになっていない。

【目的】 Fontan術後患者の BNPと hsTnTの臨床的意義を検討する事。

【対象と方法】2014年1月から12月までに Fontan術後の中遠隔期評価目的でカテーテル入院となった59人(APC type35人、LT/TCPC type24人、年齢:中央値19歳(9-51歳)、男性29人、女性30人、術後年数:中央値15.3年 (5.3-29.6年))を対象とした。 BNPは全例、hsTnTは29人で検査を行い、 BNP、hsTnTと NYHA、6分間歩行距離、 EF、 CVP、房室弁逆流との関係について検討、 APC typeは RA volume、不整脈との関係も検討した。 【結果】 BNPは LT/TCPC typeと比べ APC typeで優位に高値であった(APC type:100.1±58.6pg/ml、LT/TCPC type:56.5±59.8pg/ml p < 0.01)が、 hsTnTでは有意差を認めなかった。 NYHAは BNPでは有意差を認めなかったが hsTnTで有意差を認めた(hsTnT:1度0.006±0.004ng/ml、2度0.010±0.006ng/ml p < 0.05)。 また EFは BNPで相関関係を認めなかったが hsTnTで負の相関関係を認めた(r:-0.46、p < 0.05)。 APC typeでは NYHAは BNPと hsTnTで共に有意差を認めた(BNP:1度92.0±59.0pg/ml、2度148.4±23.3pg/ml p < 0.01、hsTnT:1度0.006±0.004ng/ml、2度0.016±0.007ng/ml p < 0.01)。 また APC typeでは BNPは highCVP(>12mmHg)で優位に高値(81.2±62.9pg/ml vs 114.3±53.7pg/ml p < 0.05)、 RA volumeと正の相関関係を認め(r:0.49, p < 0.01)、不整脈患者で優位に高値であった(不整脈なし:88.1±60.7pg/ml、あり:130.1±41.6pg/ml p < 0.05)。 EFは BNPで相関関係を認めなかったが hsTnTで負の相関関係を認めた(r-0.54、p < 0.05)。 【注意】 Fontantを保険に表すますに PNDに batter County Extent County

【結論】 Fontan術後患者では BNPと hsTnTとは臨床的意義が異なる。 BNPは APC typeで highCVPや RA拡大、不整脈により上昇する。 hsTnTは Fontan患者の心不全の biomakerとして有用である。